

愛媛県における, キュウリ緑斑モザイク病, ソラマメえそモザイク病およびハウレ ンソウえそ萎縮病の発生状況

上 田 進

(愛媛県東予病害虫防除所)

最近, 愛媛県ではじめて発生を見た上記3種のウイルス病のその後の発生状況について述べる。

キュウリ緑斑モザイク病

1966年2月, 徳島県下のハウスキュウリで, 我国で初めて発生が確認され(井上, 1966), 同年6月には愛媛県温泉郡重信町のハウス栽培(久留米落台H)に発生し, 20 a がひどい被害を受けた。発病畑では茎葉の焼却, 臭化メチルによる土壌消毒を行ったところ, 以後発生が止った。1968年大洲市のハウスキュウリ40 aに発生したが, 重信町と同様の処置を実施したところ, 翌年, 翌々年には数株発生した程度で, その後の発生はみられない(写真1)



写真1 キュウリ緑斑モザイクウイルスによる果実の奇形化

ソラマメえそモザイク病

本病は九州の一部で発生をみていた(草川, 1958)が, 本県では1970年5月松山市久枝および伊予市八倉で初めて発生が確認され, その後県下各地で発生が認められた。翌年以降も各地で発生しているが, 被害は軽微である(写真2)。



写真2 ソラマメえそモザイク病

ホウレンソウえそ萎縮病

本病は1965年埼玉県下で、また1969年には千葉県下で大発生し、大きな被害を与えた(向・粟原1967, 与良ら1967), 愛媛県では、1971年11月新居浜市船木地区の2haに発生したが、翌年には発生が少なく被害も軽微となり、1973年以降発生を認めていない。対策としては、アブラムシ駆除のためDDVPの散布が行われた。

上記3ウイルス病は発生当初被害の拡大が非常に恐れられていたが、適切な防除技術の確立とその励行によって、現在では殆んど実害はないまでに至った。しかし、こわさを忘れ、注意をおこたると再び大発生する危険がある。



写真3 ホウレンソウえそ萎縮病の発生状況

引 用 文 献

1. 藤川 隆(1958): 蚕豆壞疽モザイク病に関する試験成績(謄写), 1~48.
2. 井上忠男(1966): 植防 20, 375~378.
3. 向 秀夫・粟原一雄(1967): 日植病報, 93~94.
4. 与良 清・土居養二・小野田正樹: 日植病報, 33, 94.

(1975年 4 月 1 日受領)